



静岡県農林技術研究所
伊豆農業研究センター
栽培育種科
馬場 明子



最新研究紹介

ヒュウガナツ(ニューサマーオレンジ)の 新品種「古山ニューサマー」

1 はじめに

ヒュウガナツは文政年間(1820年頃)に宮崎県で偶発実生として発見されたカンキツです。静岡県には大正9年頃賀茂郡下河津村(現河津町)へはじめて導入されたといわれています。本格的な産地育成がなされたのは昭和30年前後からで、昭和29年の栽培面積は1.4ヘクタールでしたが、昭和32年には13ヘクタール、昭和58年に130.5ヘクタールまで拡大しました。現在でも伊豆を代表する特産カンキツ「ニューサマーオレンジ」として東伊豆町、河津町、下田市を中心に約



収穫されたニューサマーオレンジ



古山ニューサマー現地高接ぎ樹

46ヘクタールで栽培され、静岡県食セクションにも認定されている農芸品です。

伊豆地域からはこれまでも、「オレンジ日向」、「白鳥日向」、「井原日向」の3品種が、ヒュウガナツの変異種として品種登録されています。

今回、新たに、「古山ニューサマー」が品種登録されたので、紹介致します。

2 「古山ニューサマー」
発見の経緯

2006年11月、河津町の古山邦男氏がニューサマーオレンジの栽培園で



古山ニューサマー品種登録現地調査

緑色の果実の中に、黄色に色づいている果実の枝を発見しました。その後、伊豆太陽農業協同組合、伊豆農業研究センターが協力して調査し、これが枝変わり(一部の枝の特性が変化すること)であり、優れた特性を持つことが明らかになりました。このため、古山氏が2012年9月に品種登録出願し、2015年3月に品種登録されました。

3 「古山ニューサマー」の特性

「古山ニューサマー」とヒュウガナツに自分の花粉、お互いの花粉、受粉樹

に多く使われる川野ナツダイダイ(甘夏)の花粉を受粉した場合の着果状況を調査しました(表1)。
ヒュウガナツは自分の花粉を受粉(自家受粉)してもほとんど着果しませんが、「古山ニューサマー」は25%が着果しました。

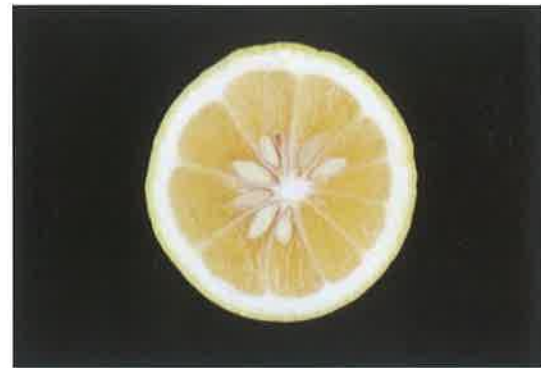
表1 異なる花粉が古山ニューサマー、ヒュウガナツの着果に与える影響

花粉親	古山ニューサマー			ヒュウガナツ			川野ナツダイダイ(甘夏)		
	処理数	着果数	着果率(%)	処理数	着果数	着果率(%)	処理数	着果数	着果率(%)
古山ニューサマー	60 ²⁾	15	25.0	45	8	17.8	32	18	56.3
ヒュウガナツ	45	1	2.2	27	0	0.0	24	13	54.2

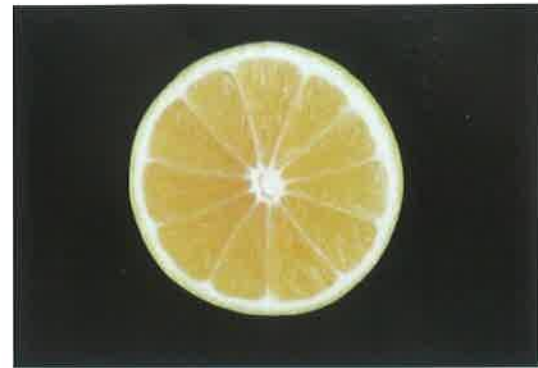
表2 異なる花粉が古山ニューサマーの果実品質に与える影響

花粉親	果実重(g)	果皮厚(mm)	完全 ¹⁾ 種子数	不完全 ²⁾ 種子数	糖度(%)	クエン酸濃度(%)
古山ニューサマー(自家受粉)	110.0	2.5	0.0	0.0	14.2	1.87
ヒュウガナツ	75.3	2.3	0.0	0.0	14.8	1.75
川野ナツダイダイ(甘夏)	231.9	3.9	30.2	2.2	11.3	1.60

1) 胚の大きさが正常種子の半分以上に発達した種子
2) 果皮の大きさに対し、胚の大きさが正常種子の半以下のもの



ヒュウガナツ

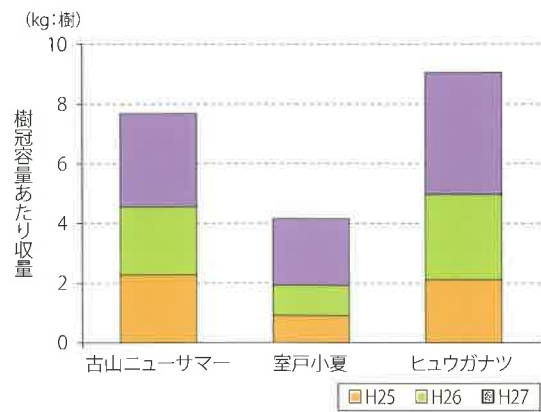


古山ニューサマー

ヒュウガナツ(自然受粉)と古山ニューサマー(自家受粉)

自分の花粉を受粉した場合の「古山ニューサマー」の果実品質を調査した結果を以下に示します。(表2)

図 ヒュウガナツ品種の樹冠容積当たり収量



※古山ニューサマーは6~8年生、他品種は7~9年生

「古山ニューサマー」は甘夏の花粉を受粉すると果実が大きく、果皮が厚くなり、種が多く入りますが、自家受粉やヒュウガナツの花粉を受粉した場合は果実が小さく、果皮が薄く種なしになり、糖度、クエン酸濃度の高い濃厚な味になりました。
「古山ニューサマー」と、種が少ないヒュウガナツ品種の室戸小夏及びヒュウガナツについて、自然受粉条件下で3年間における樹冠容積あたりの収量を図に示しました。
図の「古山ニューサマー」は、他の品種に比べ樹齢が若く、樹が小さい傾向

4 おわりに

ヒュウガナツを安定して着果させるには、甘夏などの他の品種を受粉樹として植える必要があり、その結果種子が多くなるという欠点があります。また、伊豆地域の土壌は黒ボクで有効土層が深く、樹が大きくなりがちで、剪定、収穫などの作業の省力化が課題になっています。

一方、「古山ニューサマー」は、種なし又は種が少ない果実を生産でき、樹がやや小さい傾向にあるため、省力的栽培ができる可能性もあります。

今後、「古山ニューサマー」の普及により、伊豆特産カンキツ「ニューサマーオレンジ」のさらなる高品質化と安定生産が期待されます。

賀茂郡東伊豆町稲取3012
静岡県農林技術研究所 伊豆農業
研究センター 栽培育種科
agrizu@pref.shizuoka.lg.jp